

# 自分も人も大切に 道標ない旅

～思いやり  
・チャレンジ  
・しなやかな心～

令和2年度 第9号

2020. 6. 16発行

葉山町立長柄小学校

校長 益田孝彦

Tel. 046-875-6860

Fax. 046-876-0682



<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

## ◆◆ 熱中症対策、とても重大な課題と認識しています。 ◆◆

15日から全校での登下校が始まりました。15日は、前日との気温差が激しく、葉山町でも10時頃には、28度を超え、30度近い時間帯が続きました。まさに熱中症が起りやすい環境がそろってしまいました。3時間で下校でしたが、下校途中で体調を崩す児童が1名出ました。本校のスクールガードさんが見守って下さっていたので、すぐに異変に気がついていただけたようです。大変有り難いことです。長柄東駐在所のおまわりさんも駆けつけて下さり、本人をご自宅まで送って下さいました。スクールガードさんからお電話をいただき、学校としても事態を把握することができました。

葉山署に尋ね、児童の名前を確認できたので、すぐ児童宅にお電話して健康状態を尋ねましたところ、お父様から、大丈夫で今は元気にしていますと伺い、少し胸をなで下ろしました。

今回は大事に至る前に、なんとか難を逃れましたが、今後のことを考えると課題が残ります。以下の対策はすぐに取れると判断し、皆さまにお伝えしたいと思います。

1. マスクは、登下校時には着用しなくても可とします。(マスクをしていないときは、大声で話しながらの登下校は控えましょう。) これは地域の皆さまのご理解も必要です。何卒ご賛同下さい。
2. 日傘・雨傘をさしながらの登下校を許可します。
3. 登下校の途中でも、安全な場所であれば水分を自分の判断で取って構いません。

日中の登下校は、体力のまだついていない児童には、かなりのダメージを与えるようです。ご家庭の方々による通学路途中までのお迎えも、子どもを守る大変有効な手段だと考えます。これから一層暑くなることを考え、ご支援いただければ幸いです。

## ◆◆ 日本の教育が大きな変換期を迎えようとしていること、皆さんはお気づきでしょうか。 ◆◆

先進国と言われる日本ですが、日本における教育でのコンピュータ活用は、どの程度かご存じでしょうか。経済協力開発機構(OECD)が、昨年末に発表した、2018年の学習到達度調査の結果で、「日本の15歳は、ネットで多様な情報を読み解いたり、必要な情報を選び出したりする力が弱いことが浮き上がりました。チャットやゲームで遊んでも、学習に利用する時間が少ないことも分かりました。特に、授業でデジタル機器を使う時間は、OECD加盟国(欧州諸国、米国、日本などを含む34カ国の先進諸国によって構成されており、これら34カ国の他、欧州委員会(EC)もOECD諸活動に参加しています。)の中で最下位でした。

そのような状況なので、おそらく本校を含め、全国の学校の職員室ではほとんどまだ注目されていない、あまり話題にも上がっていないことかもしれませんが、今回のコロナウイルス感染症による臨時休校の穴埋めとして、文部科学省はGIGAスクール構想を、軸に据えたようです。

実際、財務省や総務省は、当初、「教育効果が不透明」「急な全国一律の整備で運用しきれない」と懸念を示していたのですが、臨時休業の穴埋めの必要性からも、事態は一気に変わり、課題とされた国レベルでの予算が通ったので、全国の市町村も前倒しで補正予算を組み、補助金でGIGAスクール構想を現実に進める流れが作られました。横浜市や、藤沢市で生徒児童一人ひとりに、1台タブレットを配付する記事が早々と新聞に載りましたので、この記事には気づかれた方も多いかと思います。葉山町も当然GIGAスクール構想を進めていくこととなります。

この記事(一人1台配付)は、実は教育の姿が大きく変化することを意味するはずですが、ところが、配られるタブレット類は、「何でもできる」可能性のあるツールなのですが、「何にもできない」ツールでもあるのです。国は、配ること、一人1台という状況づくりには本気ですが、残念ながらそれがどう使われるかについては、あまり気を配っていないように見えます。

「職員室で話題に上がっていない」状況は、まさにそのことを示しています。タブレット配付には、そのセットとして、「教員が使いこなせるための研修・練習」が絶対に必要だと考えます。それゆえ課題があるのです。

1. 今までの授業スタイルで充分だと考えている教員は関心を示すだろうか？
2. コンピュータの扱いに習熟できていない教員もいる。宝の持ち腐れにならないか？

この課題を学校内で上手に克服して、児童のためになる有用な活用を目指していく必要があります。大人はパソコンやタブレットをツールとして使っているのに、子どもたちが教室で学習ツールとして活用できるようにするのは、時代の必然であると言えます。子どもの学びをどう進めていくか、職員室で議論を始める時が来ているように感じています。

